

続シンガポール訪問記



川島 順
弁理士
はやぶさ国際特許事務所

はじめに

小生シンガポールを訪れたのは3回目である。1回(1987)、2回(2008)ともAPAA(アジア弁理士会)の理事会に出席するためであった。2回目の訪問については秩父21年1月号に紀行文を投稿した。今回の訪問は2012年11月29日から12月3日迄、理科大のシンガポール同窓会の設立記念式典に出席するため、理科大OB8名と共に団体ツアーを編成して5日間行動を共にした。

シンガポール市内は4年前に来たときと同じ様に綺麗な高層ビルが建ち並び、町には若い人で溢れていた。

一つだけ変わった点はマールライオン公園の湾を隔てた対岸に、3つの大きなビルの屋上を繋ぐようにして大きな船に乗せた奇妙なビルが新築されていた。



マールライオンと屋上に船の載ったホテル

1. シンガポール理窓会記念式典

記念式典は12月3日、シンガポール日本人会のボールルームで行われた。

出席者は、シンガポール在住の同窓生約40名の他来賓、理科大理事長、学長を始め同窓会員約30名。式典は、塚本桓世理科大理事長の開会挨拶に始まり、藤嶋昭理科大学長の「東京理科大学の一層の発展を目指して」と題しての記念講演、顔尚強シンガポール日本文化協会名誉会長の「Singapore---An Opportunity Land」と題する記念講演を拝聴した後、議事に入り、会則制定後、役員選出の結果、顔尚強(1966年理科大卒)氏が会長に選任された。

2. 顔尚強氏の講演要旨

国土が狭く資源の無いシンガポールがなぜ今のような発展を成し遂げたかを、シンガポール政府の政策、官僚制度の改革、知的集約産業の振興、教育事業の改革、一歩先の変化に対する対策について解説された。



講話中の顔氏

この講話中で特に興味を引いた点は、

(1) 法改正とインフラ整備

①労働運動を抑制する法律改正、例えば、労働時間を32時間から44時間に増大、

有給休暇を14日から7日に縮減。

②税制改革として25万ドル以上の投資には免税、個人所得を最高20%に抑える。相続税を0にする。外資系法人税を17%に抑える。

③土地が投機対象にならないように土地徴用法の制定。利用権は30年まで。

④港、空港、銀行、道路等のインフラ整備に力を注ぐ。

(2) 官僚制度の改革：

公務員は7万人で同じ職場には長くいられないようにし、実力、実績によって評価する。この内、実権を握っているのは320名の事務次官級の人材であるが、同様に実力、実績によって3～4年で転勤させられる。

(3) 政府系企業集団 (GLC)：

国の産業の牽引車として GLC があるが、GLC 上場企業37社の時価総額は上場企業約600社の時価総額約30兆円の約40%を占めている。エリート官僚は GLC に天下って首脳部として活躍できるが、一旦業績が振るわなくなれば経営責任者の座から降ろされる。このようにして GLC の国際競争力を付け、シンガポール経済の発展を推進している。

(4) 水資源：

シンガポールには水資源は無いので、水はマレーシアからパイプで供給されている。水の自給自足も政府の大きな課題であり、雨水の利用、家庭・企業の排水の循環使用、汚水の浄化、海水の淡水化等の研究を25の研究室で研究し、実行に移しつつある。

(5) 教育事業：

少子化対策として優秀な留学生を積極的に確保し、優秀な学生、研究生には市民権を

与える。また、知的集約産業として、大学では生命科学や IT 産業の研究を奨励している。

3. 旅行中に得た豆知識

シンガポール滞在中は市内や対岸のマレーシアのジョホールバル等を見学するため専用車で移動したが、ガイドの説明や見聞きした面白い話を2、3紹介したい。

(1) 住宅事情：

顔氏の講演ではシンガポール市民の87%は持ち家を持っているとのことであったが、市内にある土地付きの住宅は、4～5億円もし、とても一般市民には手が出ない。市内にある集合住宅でも約1億円位する。一般市民は郊外の公共の集合住宅に住んでいる。賃貸価格は S\$700～1000 (日本円で5万円～7万円位) 郊外の地下鉄の沿線では公共高層住宅が延々と続いている。

(2) 自動車：

シンガポール市内の交通事情から自動車は極力増えないような様々な税金・制約がかかる。その一つが自動車購入権である。自動車を購入する場合、まず、購入権を手に入れなければならない。購入権は市場が形成されていて、現在は約300万円する。それ以外に、販売価格とほぼ同じ程度の税金がかかり、保険や手数料を入れると、250万円程度の車は1000万円位になる。

(3) ガソリン：

シンガポールのガソリン価格は約140円であるが、マレー半島ではその半分以下で買える。

週末になるとガソリントankをほぼ空にしてマレー半島に行き帰りに満タンにして

帰ってくる車が急増したので、シンガポールを出てマレーシアに行く車は3/4以上のガソリンが入っていない車には罰金をかけるという法律（3クォータ・タンク法：罰金 S\$500）が制定された。道路の横には写真のようにガソリンメータが3/4の所を示している看板が立っている。



ガソリタンク 3/4 以下の車は戻れの標識

（4）水事情：

シンガポールの水はマレー半島から鉄パイプで送られてくる。シンガポールとマレーシアを結ぶ橋はコースウエイと呼ばれ、その橋の横に直径 1 m 程の 3 本の鉄パイプが架設されている。このうち 2 本はマレー半島から送られてくる水の給水パイプで、シンガポールの浄水場で浄化された水の内半分は残りの 1 本のパイプでマレーシア側



コースウエイ橋の横に架設された給水パイプ

に送り返されている。このように浄化された水を送り返すことにより給水料金をタダにしていた。しかし、最近マレーシアが値上げを要求してきたので、3本分全部購入することとなった。

このようにシンガポールとマレーシアの関係は必ずしも良好とは云えないので、シンガポールでは顔氏の講演にあるように様々な方法で水を確保している。その一つとして、マライオン公園の前の湾を海から堰き止め、浄化する事業が進められている。現在の湾の水は茶色に濁った汚い水であった。なお、向こう岸に建っている建物は現在はホテルであるが、日本軍の占領時代は病院として接収されていた。



浄水用の濁った水の湾内と占領時の病院

（5）ジョホールバル

今回の目的の一つに、大東亜戦争緒戦においてジョホールバルで山下将軍がモスクの望楼からシンガポール島を双眼鏡で偵察し、上陸地点を決めたといわれているが、そのモスクの望楼からシンガポール島を撮影したいということである。生憎、団体行動であったのでモスクの望楼に入ることが出来なかったため、その裏庭からシンガポール島を撮影した。

しかし、朝靄でシンガポール島は霞んで
はっきり撮れなかったのが残念である。

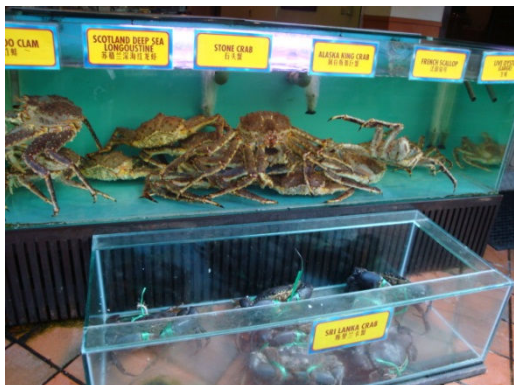


ジョホールバルからシンガポール島を望む

(6) 夜の屋台

我々の泊まったパークロイヤルホテルは
ジョホール海峡の海岸に近い所にある。

ホテルの直ぐ傍に小さな夜店が一杯並ん
でいる。夜になると、道路迄はみ出したテ
ーブルで大勢のお客がビールを飲んでいる。
店の前には大きなガラス箱の中に数十匹の
アラスカ蟹が生きたまま入れられている。
値段はS\$10~15、即ち1000円前後。
安いので食指が動いたが生憎夕飯を食べた
直後なのでそのまま見過ごした。後で人に
聞いてみると値段は100g当たりの値段
で、一匹丸ごとでは約1万円から2万円位
になる。食べなくて良かった。手前のスリ
ランカから輸入した黒い蟹は安いそうだ。



生きたアラスカ蟹のショーウインド

(7) 日本人墓地公園：

日本人墓地公園は前回の旅行記でも紹介
したが、日本人会が管理している墓地で、
戦前のシンガポールゆかりの人やからゆき
さんのお墓、そして戦時中の南方軍総司令
官の寺内寿一元帥の墓がある。前回来たと
きは、戦犯として処刑された方の墓が見当
たらなかったので、自由時間に再度それを
確認するために訪れた。たまたま、お墓で
落ち葉を掃除している人がいたので聞いて
みると、お寺の裏庭に案内された。そこには
「殉難者納骨百三十五柱」と刻まれた小
さな石柱がひっそりと片隅に建てられてい
た。そのほか、近歩4聯隊、近歩5聯隊、
その他の戦没者、自決された殉難者の慰霊
碑等が6~7基建てられてあった。



法務死された
135柱の墓標

陸海軍人軍属
慰霊石碑



日本人墓地公園

